

# 海事観光の戦略的推進について

---

- 国土交通省海事局に設置した「海事観光戦略実行推進本部」において、海事観光推進の取組により目指すべき姿として、「①海事観光分野で観光先進国という政府目標に貢献すること」、「②海事観光推進を海事分野の成長のエンジンにすること」、「③海事局の進める『C to Sea プロジェクト』を観光面からのアプローチで更に活性化すること」を位置づけ、これらの実現に向けた取組の方向性について、総合的な検討を実施
- 検討の結果、海事観光分野で観光先進国の実現に貢献すべく、重点的に進める取組事項等についてとりまとめた
- 2019年6月25日に「海事観光推進協議会」を設置し、官民連携した取組の更なる深化を図る (2019年3月28日公表)

## ➡ 海事観光分野において、観光先進国の実現に貢献

### 海事観光分野が有するポテンシャル

#### ① フェリーや旅客船による快適な広域周遊を通じた 地方部への送客



フェリー



旅客船

#### ② スーパーヨット等の豪華な滞在環境コンテンツによる 富裕層の誘致



スーパーヨット



チャーターヨット船内イメージ

#### ③ 海上輸送の特性による船でしかアクセスできない 離島への誘客



(出典)小笠原村HP



小笠原諸島



座間味島

島国日本の美しい離島へ

#### ④ マリンアクティビティ等の体験型コンテンツによる 「コト」消費の拡大



マリンアクティビティ



# 視点1 地方誘客、消費拡大への貢献～取組の方向性・具体の取組事項の例①～

## 取組の方向性

海事観光分野が有する特性を生かし、**地方誘客・消費拡大に貢献**

### ① 地方誘客を実現する広域周遊の実現

フェリーや旅客船による広域送客の特性を活かし、船と他交通モードとの連携により、生活交通・観光交通の多様性の確保のみでなく、**地方送客**や、**地方での滞在日数増加を実現**

#### 【取組の例】

○レンタカーや鉄道と連携した広域的な周遊ルートの創出や商品の造成

＜レンタカー&クルーズ＞ **【2019年度中】※R1 国直轄調査事業**  
 ・関西国際空港から、レンタカーとフェリーを接続・連携させた広域周遊ルートを造成することを目的とした、運航実証実験を実施予定。



＜レール&クルーズ＞ **【2020年夏頃】※JRTT共有建造制度を活用**  
 ・西日本旅客鉄道(株)及び瀬戸内海汽船(株)によるプロジェクト。2020年夏を目途に、観光型高速クルーザーを開発・導入し、新たな観光周遊ルートが構築される予定。



### ② 富裕層の誘致に向けた環境整備

スーパーヨットや豪華チャーターヨット等の活用により、**富裕層の誘致による消費拡大を実現**

#### 【取組の例】

- スーパーヨットの検査基準等の見直し
- 豪華チャーターヨットによる周遊ツアー活性化のための環境整備 等

＜スーパーヨットに関連した検査基準等の見直しの検討＞ **【2019年度～】**  
 ・イタリアで建造されたスーパーヨット(136トン)が、今年度、日本に輸送される予定であり、当該ヨットについて個船対応中。



＜大型プレジャーボートによる周遊ツアー活性化＞

**【2019年度中】※R1 国直轄調査事業**  
 ・国内における大型ヨット等を活用した周遊ツアーを活性化させるため、大型ヨット等を活用した滞在型周遊ツアーが盛んな欧州における事例を調査し、国内における諸課題の洗い出し、解決策の整理等を行う予定。



取組の方向性

海事観光分野が有する特性を生かし、**地方誘客・消費拡大に貢献**

③ 離島へのアイランドツーリズムの推進

船の海上輸送の特性を生かし、離島航路については、生活交通と観光交通のコラボレーションによる**離島への誘客・滞在日数増を実現**

＜インバウンド船旅振興制度の創設＞【2019年4月創設】

・旅客船事業者の創意工夫による観光航路活性化に向けた「インバウンド船旅振興制度」を創設

新規航路開設等の新サービス創出がより柔軟に可能に



インバウンド船旅振興制度活用航路(新潟～粟島間)

＜地方発着フライ&クルーズ推進事業＞

【2019年度中】※(公社)日本観光振興協会連携事業

・地方発着フライ&クルーズを推進するため、寄港地周辺での消費拡大に向けた地域魅力向上策、二次交通確保、効果的な情報発信の在り方等、諸課題と対処の在り方についての調査を実施予定。



©コスタクルーズ



④ コト消費の拡大

海事観光コンテンツの磨き上げによる、**海事観光分野における「コト消費」の拡大を実現**

＜リクルートと連携した海事観光需要創出＞

【2019年度中予定】※C to Seaプロジェクト

・国土交通省、海事関連団体、リクルートで企画した、若者向けマリン需要創出に向けた取り組み「海マジ！」※の対象に「旅客船」の追加を検討中。  
※19・20歳の若者に無料で「マリン体験」(プレジャーボート、サーフィン、カヌー、釣りなど)をしてもらう。



＜マリンアクティビティ等の情報発信事業＞

【2019年度中】※(公社)日本観光振興協会連携事業

・マリンアクティビティの楽しさや魅力等を紹介する動画の作成や、観光展へのブース出展により、潜在層に対して効果的にマリンアクティビティに関する情報発信を行い、マリンアクティビティの認知度を向上させ、体験型観光への参加を促す事業について検討中。

＜動画概要＞

- ・一般の人が「私にもできる」と思えるような、身近に感じる動画
- ・プレジャーボート(釣り、シュノーケリング含む)、PWC、サーフィン、カヌー、旅客船、SUPの6分類について紹介。
- ・YouTube、ツーリズムEXPO、マリンイベント他で放映。



＜DMOと連携した情報発信＞

・海の京都DMOや、瀬戸内DMOと連携して、マリンアクティビティ等の魅力を発信する。

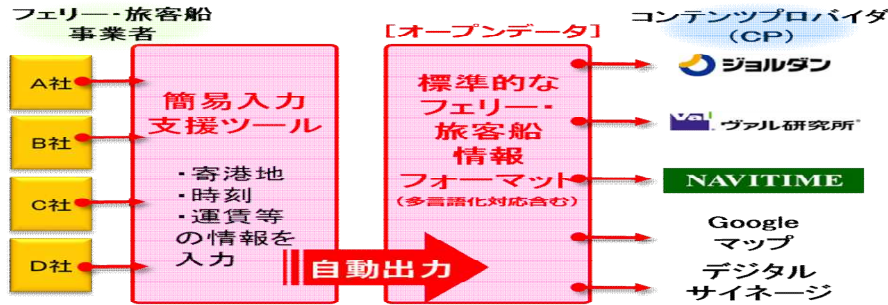
# 視点2 受入環境整備～取組の方向性・具体の取組事項の例～

## 取組の方向性

すべての旅行者が他分野とシームレスに、ストレスなく快適に海事観光を満喫できる環境を実現するため、**船舶や関連施設周りの受入環境整備の更なる推進が必要**

### 航路情報のオープンデータ化促進

- ・MaaS実現を視野に入れた多言語化対応の航路情報提供に向けた標準フォーマット・入カツールの公表【2019年4月公表】



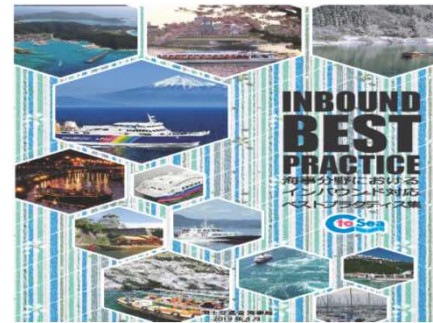
- ・上記ツールを元に、航路情報のデータ化支援により航路情報のオープンデータ化を加速化する。【2019年度中予定】※R1 国直轄調査事業

### MaaSの実証実験（新モビリティサービス推進事業）

- ・全国の牽引役となる先駆的な取組を、「先行モデル事業」として選定（先行モデル事業の例）  
 【2019年6月選定・公表】
- ・志摩地域（志摩市、近鉄グループHD）  
 ⇒MaaSアプリを構築（検索・予約・決済）、デジタルフリーパス販売
- ・瀬戸内地域（瀬戸内洋上都市ビジョン協議会）  
 ⇒高松空港から入る観光客を対象とした旅程提案型MaaSの提供

### ベストプラクティスの収集・水平展開

- ・旅客船、フェリー、マリンアクティビティに係るインバウンド対応ベストプラクティス集の作成・公表【2019年4月公表】



ベストプラクティス集(イメージ)

- (記載内容の例)
- ・創意ある取組内容
  - ・効果・成功要因
  - ・今後の課題・展開等

### 受入環境整備の現状把握・目標設定

- ・主要な中長距離フェリー航路におけるインバウンド受入環境整備目標の設定【2019年4月公表】

- (項目の例)
- ・船内における多言語情報提供
  - ・船内Wi-Fi環境の整備
  - ・インターネット予約 等



フェリー船内における多言語案内の例

## 取組の方向性

- ✓ 業界全体に海事観光推進に係る取組推進のメリットを浸透させ、機運を高めるための情報発信が必要
- ✓ インバウンド向けには、**JNTOとの連携をはじめとした積極的プロモーションが必要**
- ✓ 国内旅行者向けには、幅広い層に対し、**「C to Seaプロジェクト」<sup>(※)</sup>等と連携した情報発信強化が必要**

(※)「C to Seaプロジェクト」・・・海や船に触れる機会の創出と、海事・海洋に関する情報発信を行う官民一体の取組

## 具体的取組の例

### ベストプラクティスの水平展開とフォローアップ

- ・海事観光推進に係るベストプラクティスの収集・水平展開
- ・ベストプラクティスのフォローアップ事例のフォローアップを通じた持続性のある事業の実現

### インバウンド観光促進のための情報発信強化

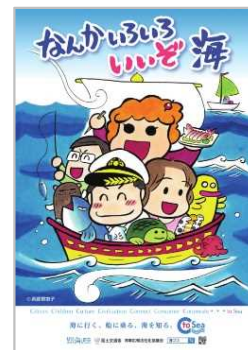
- ・訪日プロモーションに係るJNTOとの積極的連携  
⇒アイランドツーリズムの振興に関するプロモーションを実施予定。  
※重点発信地域(佐渡島、五島列島、大隅諸島、八重山諸島等)
- ・動画やSNSの活用などのデジタルマーケティング方策検討  
**【2019年度中】※JNTO官民連携事業(受託者(株)MELZ)**
- ・世界に誇れる観光資源(世界遺産、「世界で最も美しい湾クラブ」等)を活用した取組との連携



インバウンド向け情報発信強化  
(Scenic Japan from the Water)

### 「C to Seaプロジェクト」と連携した国内向け情報発信強化

- ・イベント造成・情報発信等を通じた官民一体となった「C to Seaプロジェクト」の更なる推進
- ・ポータルサイト「海ココ」、Twitter、Instagramを活用した情報発信
- ・各種イベント・情報発信における、「C to Seaプロジェクトアンバサダー」STU48や、全国各地の「ご当地アンバサダー」等との連携
- ・「海事レポート」で海事観光の魅力を特集(フェリー・クルーズ等)
- ・マリンアクティビティや船旅等、海や船の魅力発信



西原理恵子さんとの  
コラボポスター



Instagram投稿例  
(SNSは平日毎日更新中)



イベントにて海や船の魅力発信  
(写真はR1年海の日イベント)